KIS10周年 お祝いメッセージ

茨木市議会議員 いなばみちのぶ様

開校10周年にあたり心よりお祝い申し上げます。

私は中村信彦・前市議会議員の後継として、入学式や卒業式で度々スピーチをさせていただいております。もともと非常にシャイな性格のため、中村先生と違って人前で話すことが苦手なのですが（議員なのに）、いつも私の拙いスピーチに笑顔で応えてくれる生徒の皆さんや保護者の皆さま、先生方の温かいお心遣いにはとても感謝しております。

私と皆さんとの出会いは文化祭でした。そのレベルの高さに「さすがインターナショナルスクールやな！」と感服しました（ドラえもんの主題歌が変わっていたことを初めて知った瞬間でもありました）。男子校出身の私にとって、ずっと憧れていた共学の文化祭のイメージそのものでした。

また授業風景も視察させていただき、いわゆる詰め込み式といわれる受験勉強をしてきた私には「生徒に考えさせる」スタイルの講義方法は大変新鮮に感じました。KISの持つオリジナリティーと多様性こそが、この学校の最大の武器であると思います。

日本の社会もいま、変化を求められています。政府が積極的にグローバリズムに適応しようとしているように、これからビジネスや技術・知識の分野でどんどん「国境」が無くなっていくと思われます。日本に住む私たちも近い将来、様々な異なった文化や慣習を持った人々ともっと関わっていくことになるでしょう。しかしそれは口で言うほど簡単なことではありません。アイデンティティや慣習の違いという「壁」に、まもなく私たちは向き合うことになります。その時こそ、「越境人」としてこのKISに学ばれた皆さんが大きく躍動するときだと思います。ぜひここで学んだ知識や経験を、世界と繋がっていくために活用してください。そして皆さんのふるさとと、日本との平和や文化のかけはしで居続けていただけることを心から期待しています。

茨木市立豊川小学校　教員　白井亮吾様

この度は創立10周年、誠におめでとうございます。

この10年間で、同じ地域にある学校として、子どもたちにそして地域に対して何ができるかを考え、ともに発展することができたのではないかと思います。今では、地域にあるお宝の一つとして3年生の児童がコリア学園の見学・交流をしています。また5年生では、大阪生野コリアタウンの見学で得た疑問点を切り口にして、生徒さんに質問をしたり交流を深めたりします。そこにある、将来の夢を語る身近な先輩との出会いに、豊川小学校の子どもたちは心を動かされ、ロールモデルにする児童もおり、コリア学園への進学を希望する児童も少なくありません。

これからも子どもたちの豊かな成長を願い、ともに学び合える関係を築き続けられればと願っております。

茨木市立郡山小学校長　新海理丘様

コリア国際学園創立10周年を心よりお喜び申しあげます。

創立以来、貴校の、国際化の時代を切り拓いていくために個性と多様性の尊重を基礎とした創造力溢れる人間の育成を掲げられた建学の精神と、「多文化共生・人権と平和・自由と創造」の教育理念は、本校とも相通ずるものがあり、近隣校として様々な教育活動の中で交流や連携をいただいて参りました。この場をお借りいたしまして厚くお礼申しあげます。今後ともこの繋がりを大切に連携をお願いいたしますとともに、貴校のますますの発展を祈念いたしましてお祝いのことばとさせていただきます。

豊川いのち・愛・ゆめセンター館長　和田吉博様

開校10周年をお迎えになられたことを心よりお慶び申し上げます。

コリア国際学園が茨木、豊川の地で活動いただいていることで、この地域の活気と文化の豊かさを醸成していただいていることは、大変有難く、日ごろより感謝しているところです。

今年度に入り、茨木では震災や風水害が続いております。しかし、苦難があるがゆえに地域の繋がりがあることのありがたさ、また、その大切さを実感している今日この頃です。これからも、この地域や豊川いのち・愛・ゆめセンターとの繋がりを大切にしていただき、この先10年、20年と輝かしい未来を共に切り開き続けていただけることを期待しております。

（公財）箕面市国際交流協会　事業課長　河合大輔様

私も箕面市国際交流協会に勤めてちょうど10年。多様なルーツを持つ子どもたちや大人たちに出会い、いっしょに悩んだり、仕事や住む場所を探したり、はたまた一緒にカフェをつくろう！とワイワイやっているうちに10年が経ちました。地域で仕事をしていると、沢山の「壁」に気づきます。その壁のせいで、持っている力を活かせず立ち尽くす人がいます。決めつけが増幅し憎しみが生まれています。あるいは、その壁によって、辛うじて何かを守る人がいます。この「壁」にどう取り組むのか。一番大きなテーマです。

KISの皆さんと授業やイベントを一緒に企画したり、地域の子どもの教育相談にのってもらったりしてきたこれまでの10年。「越境人」を育成してきたKISの学びを地域に活かし、地域の課題をKISの学びに活かす。そんな関係がさらに深まるととても嬉しいです。

在外同胞民族文化教育ネットワーク代表　チョン・スンチョン様

私が出会ったコリア国際学園は、大阪に位置した風雅な趣をもつ、こぢんまりとした学校です。アジアの多様な国籍をもつ生徒たちが集まり、壮大な世界を夢見る学校。お互い異なる言語と文化が出会い、お互いを思いやり心身を成長させる学校。豊かな知識を習得し、友だちとの関わりを大切にする学校。民族と国家を越えて、健全で幸せな教育をする学校。私はコリア国際学園が、難しい状況の中で守ってきた10年間の成果をもとに、これからもアジアを越えて世界をリードする未来志向市民を育成する学校として発展することを心から応援します。

KIS Canada Study Tour Coordinator, 2016　Wendy Morris

Here's wishing everyone at KIS a very happy 10th Anniversary!
What a great week we had on the Sunshine Coast! Sunny weather, pleasant homestays, fun Canadian 'Buddies' at Elphinstone Secondary School in the morning, and great activities in the afternoon. You shared your culture with other students and your homestay families, went canoeing with First Nations guides, kayaked in the Gibsons Harbour, visited a salmon hatchery and enjoyed our wonderful nature. We had lots of laughs and you learned about Canadian culture: maple leaves, kayaks, war canoes, cooking classes and hopefully more. It was great to meet you, Korea International School. I have very fond memories of your visit to the Sunshine Coast.

Exchange Program Coordinator Fiji　Anita Gounder

Humble Greetings from the Fiji Islands!!
I am honored and privileged to be given the opportunity to send a message on your 10th anniversary. First congratulations to KIS on your achievements and successfully completing 10 years of academic excellence. The sacrifice made by Nadi Sangam College teachers and Principal way back in 2012 on a holiday is being rewarded now with the opportunity to contribute towards your celebrating ceremony.
I would like to address my heartfelt appreciation to the Principal, teachers, and board members of KIS for supporting this exchange program. The parents are the major partners in this program. Therefore, I applaud them for their support and guidance towards the children. To the KIS students I thank you for choosing to come to Fiji. You had been a dedicated and cooperative group of very lovely children. Once again congratulations and a very big thank you for the chance given to me to be part of your celebrations.
Vinakavakalevu

特集2

KISの 兄弟姉妹モノガタリ

大きな迷いの時期ですが、とても輝く時期でもある思春期。
その時間をKISで共に過ごした兄弟姉妹たちの思い出の詰まった
モノガタリをお届けします。

第4期卒業生 朴苑眞さん
第5期卒業生 朴苑善さん

今答えを見つけることができなくても構いません

こんにちは、KIS第四期卒業生の朴苑眞、第五期卒業生の朴苑善です。私たちはKISに一期生、二期生として入学しました。家が学校から近いこともあり、今でもよく先生や後輩たちに会いにKISに遊びに行っています。卒業してもう四、五年が経つので同時期に学校生活を送った後輩たちはほとんどいませんが、私たちの母校KISの後輩たちであることを思うとどの後輩もとても可愛く、また自分たちの当時の学校生活を思い出しては少し羨ましくも感じます。そんなKISも早、十周年を迎えるという話をお聞きしました。私たちは「おめでとうございます」ではなく「ありがとうございます」という感謝の言葉を述べたいです。第一に、KISの設立に力を注いでくださった多くの方々、それからいつもKISを応援し、愛し、守ってくださったすべての方々に感謝します。

私たちは今、KISでの学びをもとに学業に励んでいます。私たちが考える「KISでの学び」とは、何かの問いに対して様々な人種、年齢、性別、価値観を持つ人々と議論したり対話したりしながら自分なりの答えを見つけること。それを自分なりの形で表現する力をつけることでした。たとえば、学校の教育理念でもある「越境人」に関して、KISでは「越境人」とはこのような人のことを指しますといったような一方向的な教えはありませんでした。それぞれにとって「越境人」とは何であるのかを人との議論や対話を通して考えるものです。今答えを見つけることができなくても構いません。一年後、その答えやそれに対する考え方が変わっていてもいいのです。その一つの問いを自分の目で見つめ続けること、頭で考え続けること、心で感じ続けることが大事なのだということを私たちはKISで学ぶことができました。「越境人とは何か」という問いに対する答えは今もなお模索中です。いつか自分なりの定義づけをする日が来るのでしょうか。だからといって今無理に答えを見つけようとはしていません。私たちはいつもそれを見つめていて考えていてゆれているから、それでいいのかもしれません。

最後に、私たちから後輩たちに伝えたい言葉があります。KISはまだまだ新しい学校です。今後新しい制度が導入されながら学校の方針が大きく変わることがあるかもしれません。

ですが、どのような形に変化しようともこれだけは忘れずに心に刻んでおいてください。KISがなぜ設立されたのか。この時代に在日コリアンをはじめとする多くの人々がなぜこのような学校を作ろうとしたのか。教育理念に込められた思いとは何であったのか。そしてその中で自分は何ができるのか。

朴弼用様・太田かおる様
（朴苑眞・朴苑善 保護者）

KISでの学びが現在の彼女らの人生の大きな軸となっている

創立十周年、おめでとうございます。KISと中高六年間を共にした二人の娘を持つ親としても成長させていただいた年月だったと感じています。KISが設立され、一期生、二期生として娘たちをKISに送りながら、親としては本当にこれで良かったのだろうかと幾度も考え悩みました。しかしそんな親の心配とは裏腹に娘たちは毎日本当に楽しそうに学校に通い、家に帰って来てはその日学校であった色々なことを時には大笑いしながら、時にはカンカンに怒りながら話してくるのです。娘たちのそんな姿を見ながらどこかほっとするところがありました。KISでの六年間の学校生活はあっという間に過ぎ、上の娘が卒業してもう五年が経とうとしています。今では二人ともに成人し、彼女らなりに考え悩みながらそれぞれの道を歩み始めていますが、KISでの学びが現在の彼女らの人生の大きな軸となっているのではないでしょうか。これからも家族みんなでKISを応援し、KISに通う子どもたちの成長を見守っていけたらと思っております。

第8期卒業生 朴彩実さん
高等部3年生 朴勇太さん

私にとってKISとは帰る場所であり、特別な場所です

第8期卒業生の朴彩実です。私は、日本で生まれ育った在日コリアンです。幼稚園から小学生までは朝鮮学校に通っていました。当たり前

離が非常に近いのです。特に、ＫＩＳの特徴とも言えるのが、先輩と後輩の距離の近さです。私は、特に先輩、後輩との関わりが多く、今でも頻繁に連絡を取り合っています。卒業後もこのような関係性が続くことは、とても素晴らしいことだと改めて感じます。また、生徒間のみならず、先生との距離も非常に近いのがＫＩＳです。卒業後も学校を訪れる度に、後輩や先生方が快く迎え入れてくれます。その度に、この学校の卒業生で良かったとしみじみ感じます。

　ＫＩＳには自分を成長させてくれるチャンスが色んなところに転がっています。私は、この６年間で様々な活動に参加しました。中学１年生の頃から５年間参加し続けたオリニ希望学校、東日本大震災のボランティア活動、韓国や台湾のスタディツアー、ＥＳＤ活動報告会など本当に沢山の経験をさせてもらいました。これらの経験を通じてたくさんの人たちとつながり、その人脈は私にとって本当にかけがえのない大切な存在となりました。ＫＩＳは、自分のやる気次第でなんでも実現できる学校です。また、やりたいことが分からなくても、そのような機会をいくらでも紹介してくれます。しかし勇気を持って手を上げなければ、なにも変わりません。なので、後輩の皆さんにはＫＩＳの環境を存分に活かし、「特別なＫＩＳ生活」を送って欲しいと心から思います。大人になって後悔しても遅いのです。なので、全力で楽しんで、全力で学んでください。

　私の弟、朴勇太もＫＩＳに通う高等部３年生です。彼は、現在大学の準備の為、毎日自分の将来と向き合い、悩みながら日々を一生懸命に過ごしています。彼を見ていると１年前大学の準備を必死にしていた頃の自分を思い出します。あの頃は不安でたまらなく、彼も今同じ境地にいると思うと心から応援したいです。しかし、大分にいる私は側でサポートしてあげることができず、もどかしい気持ちです。ＫＩＳで過ごすのも残りわずか。家族とＫＩＳの仲間に囲まれて育ってきた自分に自信を持って、最後まで頑張ってください。

　私は、現在大分県別府市にある立命館アジア太平洋大学（ＡＰＵ）で寮生活をしながら学んでいます。最初の１，２ヶ月は、親元を離れての生活に戸惑いながら、また尋常じゃない程の課題に追われ、何度も心が折れそうになりました。大学生になって４ヶ月の今は、毎日が本当に楽しくて仕方がありません。ＡＰＵに出会えたのもＫＩＳのおかげです。ＫＩＳに通っていなければ、ＡＰＵの存在を知ることもありませんでした。また、受験期の先生方のサポートがなければ、今の私はここにいなかったかもしれません。

　私にとってＫＩＳとは帰る場所であり、特別な場所です。小学生の頃に両親の勧めがなければ、今の私はいませんでした。なので、両親には感謝してもしきれません。ＫＩＳに出会えたことに感謝し、またＫＩＳを通して出会った多くの人々との縁を大切にしながら今後も大学生活を送っていきたいと思います。

第８期卒業生　木村ふうかさん
中等部２年生　木村広大さん

何に関しても諦めないこと、自分が今見ていることが全てではないということを学びました

　私がＫＩＳに通うことになった理由は、小学校６年の時に引っ越しをして、公立中学校に行きたくなかったのもありますが、１番は外国語を学ぶことができるというところに魅力を感じました。豊川の近辺には沢山の私立中高学校がありますが、その私立中学校には反対されＫＩＳに通うことになりました。弟は、ＫＩＳの先輩や友人が可愛がってくれたり、通っている小学校がＫＩＳと交流があったりして、身近に感じたからだと言っています。

　私の両親は、消極的で意見も言わない私たちがＫＩＳに行き少しでも変わればと思い、私と弟を入学させたそうです。そして、当時にＫＩＳに通っていた私の先輩たちが、地域の人に挨拶をしているのを見たり、地域清掃を積極的に行なっていたりするのを見て、この学校なら行かせても大丈夫だと思ったそうです。

　私と弟は、弟の入学式の前日に新入生を迎えるための学校の清掃ボランティアに参加しました。ですが、掃除中に転んで骨折し、次の日の入学式には出席できませんでした。とても、名誉ある骨折だったと思います。

　私はＫＩＳに６年間通い卒業しましたが、学んだことがたくさんあります。コリア語や多文化共生論などＫＩＳ特有の科目も学ぶことが多かったのですが、それ以上に何に関しても諦めない気持ち、物事をいろんな角度から見る心構えなど、内面的な部分が多かったと思います。その過程で何事にも素直な態度で臨み、真摯に向き合える姿勢が身についた気がします。弟や後輩たちにも、一方向からみる世界だけではなく、前後左右から見ることができる能力を身につけてほしいと思います。

　学校では喋りもしなかったのに、家では常に２人で喧嘩しています。最近では、２人で夢の話をした時に私がぐちぐち言ってしまい、２人ともイライラ。私自身、進路を決めるのがギリギリで、弟には進路を早く決めて後悔なく過ごしてほしいだけなのに、まだ分かってもらえないです。昔、弟は図鑑を端から端までを暗記していたので、それを活かせるような進路が見つかればいいと思っています。

　そんな私の夢はＫＩＳに教員として戻り、自分の弟を指導することです。現在は高等学校教諭（保健体育）の免許を取得するために大学で勉強しています。私が大学を卒業する頃には、弟は高３なので、指導できるのは１年ですが姉弟の関係ではなく、先生と生徒の関係で教えることができたらいいなと思います。

第2回国際ユースカンファレンスに参加

２０１７年の11月に韓国・成南市で行われた5泊6日の国際ユースカンファレンスにＫＩＳから8名の生徒が参加し、開催国の韓国を中心に、日本・中国・ベトナム・タイ・アメリカからの青少年が集まって交流をしました。

今回のカンファレンスで、私が個人的に感銘を受けた点が二つあります。一つ目は、韓国の高校生の「主体性」と、「ホスピタリティー」です。期間中は、司会やチームのリーダーなどを、すべて韓国の高校生が取り行っていました。ただ主催国だからというだけでなく、与えられたタスクを基に、彼ら自身がさらに全体を盛り上げようとする姿勢がとても印象的でした。しかも、当日に配布されたコリア語・英語のしおりも、高校生がすべて英訳したというので驚きでした。

そして二つ目が、参加した高校生の「越境精神」です。それぞれ生まれ育った地域や言語が違うにも関わらず、何とかして考えや楽しさを共有しようとする空間そのものが素晴らしいと思ったのと同時に、これからのＫＩＳも、このような姿になればいいなと思いました。

参加前まではＫＩＳ生も、言語について少し不安を感じていた様子でしたが、いざ現地に行ってみると、誰も孤立した様子がなく、カンファレンスを楽しんでいました。

途中のリフレクションでも、「自分の英語力に不安を覚えていたが、他のみんなが親切に聞いてくれるので、たくさん会話をすることができた」と、言っていた生徒もいたほどでした。

このカンファレンスを通して、英語の学習意欲が更に増えた事もそうですが、言語だけじゃない国際交流の形を学ぶことができたのが一番の収穫でした。次のカンファレンスでは、より多くの後輩が参加できたらいいなと思います。

（高3　文世奈）

境界に生きる人々の歴史と現状を学ぶ ～台湾編～

２０１７年の冬休みに実施された「スタディツアー in 台湾」に参加しました。初めての台湾で、行く前からとても楽しみでした。スタディツアーといえば勉強。台湾についての勉強もしっかりしてきました。

まずは台湾総統府や中正記念堂、ニニ八記念館などを訪問し、台湾の歴史について学びました。日本による植民地支配や内戦と分断、国民に対する弾圧など、日本やコリアと共通する歴史的背景を持つ台湾。今回のスタディツアーでそんな台湾の姿に少し触れたような気がします。

観光を通して台湾の文化も体験しました。夜市ではマンゴーやかき氷、小籠包などおいしいものをいっぱい食べました。臭豆腐はすごい臭いがしましたが、これも体験と思い勇気を振り絞って食べてみました。もう二度と食べたくはありませんが、みなさんも一度は体験してみてください。

故宮博物館には大陸から持ってきた宝物などが展示されていました。一番楽しみだったのは玉で作った白菜と豚の角煮です。なぜそれを玉で造ったのかとても気になりました。

台湾のローカル鉄道平渓線に乗って十分、九份にも行きました。十分では願い事を書いたランタンをあげたり、「台湾のナイアガラ」と呼ばれている十分瀑布に行ったりしました。夜には「千と千尋の神隠し」の舞台となったと言われる九份に行きました。とても幻想的でした。

行ったことがないまちを訪れ、勉強して、観光して、おいしいものを食べて、歩いて。とても充実した幸せな5日間でした。みなさんもぜひ参加してみてください。

（高2　金玟貞）

実力発揮の場、言語大会

ＫＩＳには「日本語・コリア語・英語・中国語」話者がいます。学校内で4言語が飛び交う環境の中で、ＫＩＳの生徒たちは言語に対する高い意識を持つようになります。そのため、その言語を活用できる場を積極的に提供していきたいと思っています。その一つとして様々な弁論大会があります。いい結果を残すことだけが目的ではありません。練習の過程で培える大事なものがあります。テーマに沿って深い考えをもつようになり、伝わる言語力を意識するようにもなります。

今年6回目の大会を迎える「3言語スピーチ大会」（ＳＯＩＳとの共催）は、「日本語・コリア語・英語・中国語」の4言語のうち、中等部は2言語を、高等部は3言語を選択しスピーチを行う大会です。多言語でスピーチをするので、出場自体が挑戦ですが、毎年多くの生徒が楽しんで大会に臨んでいます。また、「韓国語弁論大会」（韓国大阪青年会議所主催）にも毎年出場し、大勢の前でスピーチをするというプレッシャーを楽しみに替えて立派なスピーチを見せています。

言語教育を重んじるＫＩＳで、このような大会が生徒たちに与える影響は、小さなものではありません。学習期間がわずかな生徒が賞を取り、「ペラペラじゃなかったら、出場できない」という固定観念を破ってくれたり、日本生活一年あまりの留学生が日本語でスピーチをし、賞を取ったり、「やればできる」という事実を伝えています。

このような姿を目にするからなのでしょうか。弁論大会が終わると、出場者を応援していた生徒から「次は私も出場してみたいです！」という声をよく聞きます。11月にある「第6回3言語スピーチ大会」に向けて、生徒たちと楽しく練習していきたいです。

（コリア語科　金泯芝）

学生会主催の遠足を実施

生徒たちが進んで参加したくなるような楽しいイベントを企画することで、学生会活動にも自発的に、積極的に関わって欲しい。そんな考えから学生会遠足を企画してみました。２０１７年度の第9期学生会が始めたのですが、あえて全員参加にはせず、希望者だけで行く企画にしました。

楽しいと感じてもらうことが一番重要なので行き先に悩みましたが、これまでにカップヌードルミュージアムとイリュージョンミュージアムに行きました。

1回目のカップヌードルミュージアムには24名が参加しましたが、とても楽しかったです。カップヌードルの器に絵を描き、好きな麺と具とスープで作るオリジナルカップヌードル。粉からこねて作るチキンラーメン。なかなかもったいなくて食べられなかったですが、賞味期限があるので食べました。

サッカー部員がたくさん参加してくれて、交流になったこともうれしかったです。「今までで一番楽しいイベントだったかもしれない！」とまで言ってくれる生徒がいて、企画に関わった一人としてすごく嬉しかったことを覚えています。

2回目のイリュージョンミュージアムは大阪城に新しくできた施設で、マジック体験やショーも見学できます。ショーや展示を見ながらついつい歓声を上げてしまい、スタッフや他のお客さんの注目を集めてしまいました。ブルーシートを敷いてみんなでお弁当を食べてゲームをしたのが何気に楽しかったです。

（高2　趙仁実）

識字教室の講師として活躍する留学生たち

コリア国際学園の近くにある豊川いのち・愛・ゆめセンターでは、幼い頃に学校に通えなかった方や、外国人のための識字教室が毎週火曜日に行われています。長い歴史がある識字教室でセンターの大切な活動のひとつです。

この識字教室は、日本語の授業だけでなく、コリアにルーツがある方のためのコリア語識字教室も行われています。今年からコリア語識字教室の講師をコリア国際学園の留学生が担当するようになりました。今年は高等部3年の私（장은교）と장영규さん、장승완さん、오현빈さんが担当しています。

はじめに母音（모음）と子音（자음）の組み合わせで構成されるハングルの特徴を理解することから始めました。次に数字をハングルで表し、読み方を練習しました。その後、教科書を読み、内容を理解し、練習問題を繰り返し解きます。

内容がだんだん難しくなるので、授業内容と関連する歌を歌いながら勉強することもあります。授業を担当するようになって感じたことは準備の大変さです。授業を楽しみにして来てくれる人たちのことを考えると、1時間の授業の準備に2時間も3時間もかかってしまいます。

ひとつの授業を2チームに分けて担当しているので、授業内容や宿題の引き継ぎもしっかりしなければなりません。それでも授業を楽しんでくれたり、教えたことを覚えてくれたりした時はほんとうに嬉しいです。また地域の人たちと出会い、交流する貴重な時間になっています。

これからも授業方法を研究して、参加者が楽しんで学べるようがんばりたいと思います。

（高3　張恩喬）

国際協力エッセイコンテストで特別賞受賞

高等部2年の文世奈さん（学年は2017年度のもの）が、「第56回国際協力エッセイコンテスト」に応募、8万点近い作品から、「国際協力特別賞」を受賞しました。

このコンテストは、次世代を担う中学生・高校生を対象に、開発途上国の現状や日本との関係について理解を深め、日本そして自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えるために実施しています。

文世奈さんは中等部3年1月より約1年、オセアニア南太平洋の島嶼国フィジー共和国にある姉妹校、サンガム・カレッジ高校へ長期留学をしました。そこで経験した「ケレケレ」という共有文化やインド人家族とのエピソードをエッセイにまとめました。

人は慣れていない環境におかれると、その生活に慣れるのに必死で周りが見えなくなってしまったり、大事なことを見逃してしまったりすることがあります。文世奈さんの文章にはそんな迷いと戸惑いの日々が綴られています。お互い理解し合うために「違い」をどう受け止めるべきか、国際人としてどう生きていくべきか。真剣に向きあい悩んでいた時間が込められています。

彼女の文章を読み「留学とは、単に、言語能力を獲得するだけにあらず」ということをあらためて感じました。

貴重な経験を忘れずに、つらいことも悲しいことも成長の踏み台にして、今後の更なる活躍を期待しています。受賞、おめでとうございます。

（総務　宋貞淑）

龍安寺参道商店街活性化のためのプロジェクト参加

コリア国際学園にはいろんな学びのチャンスが転がっています。私が今回参加することにした「まちづくりゼミ」の活動もそんな学びのチャンスの一つです。立命館大学産業社会学部の小澤ゼミが実施している龍安寺参道商店街活性化のためのプロジェクトに、コリア国際学園も関わることになったのです。

京都の龍安寺に向かう参道にある商店街を活性化し、外国人観光客が利用しやすい商店街にするにはどうしたらいいのか。コリア国際学園の多様な文化的背景を持つ生徒たちが協力することになったのです。

商店街の方や大学教授、大学生たちとの共同プロジェクトはとても刺激的です。今のところは、まだ見学と会議だけですが、今までにないくらい細かいことまで決めたり、実行できることを考えるんじゃなくて、実行したいことを話し合ったりして、初めての経験だらけでした。龍安寺商店街がどうしたらもっと活気が出るか、どうしたらもっとたくさんの旅行客が足を止めて楽しんでくれるかなどたくさんのことを話し合いました。

学校外の方たちと実践的な活動をしたのは初めてですが、自分ももっと積極的に考え、行動しなければならないと思いました。また、立場が違う人たちと一緒に仕事をする時は、周囲のことをよく考えなければならないと学びました。これからは会議した内容を実行して行くということで責任重大です。私たちが考えたことが結果に結びつくよう、これからも頑張って行きます。

（高2　張奈永）

中等部3年生、沖縄修学旅行

6月20日から4日間、中等部3年生の修学旅行がありました。目的地は沖縄。沖縄と言えば青い海と、青い空。リゾートとしてのイメージが強いですが、独自の琉球文化や沖縄戦、現在の米軍基地問題など私たちが知らなければならないこともたくさんあります。

初日はひめゆり平和祈念資料館、平和祈念公園、斎場御嶽などに行きました。戦争が引き起こす惨状やその中で現れる人間の醜さ、それが若者たちの人生に与えた影響。修学旅行に行く前に学んだことが生々しく迫ってきました。また沖縄人と朝鮮人に対する差別についても学びました。

修学旅行2日目は嘉数高台公園から普天間飛行場を眺めて、佐喜眞美術館へ。世界一危険な基地と言われる普天間飛行場は住宅地の中にあり、ヘリコプターの窓が落下した学校も見えました。

佐喜眞美術館では沖縄戦の図の説明を受けた後、チビチリガマを訪れました。午後からは青の洞窟でシュノーケリング体験をしました。インストラクターに水中写真をいっぱい撮ってもらいました。

3日目に訪れた辺野古の海はこれまでに見たことがないくらい美しい海でした。そしてキャンプシュワブで辺野古の埋め立て反対運動をしている人たちからお話を聞くこともできました。修学旅行最終日は首里城や琉球王国の歴史に触れました。

4日間天気にも恵まれ、楽しくて、学ぶことの多い修学旅行でした。

（中3担任　ローレン）